

ア さやかグループ広報誌

SAYAKA

2019.1.11 NO.83



さやか画伯紹介



小柄で坊主頭、
ほんわかした雰囲気のエイ子さんですが、その外見と

は異なりお化け、妖怪、地獄絵、宇宙など目に見えない存在にとっても興味のある方です。以前より写し絵など、絵を描く事は大好きで、ホームや活動の昼休みに楽しまれていました。昨年より、アート活動が始まり、エイ子さんの活躍する機会が増えました。下絵は鉛筆、塗りはクレヨン、クーピー、サインペンを使ってみました。100均のクレヨンがエイ子さんの不思議な世界には一番だったようです。以前より挨拶する時、職員の腕を撫でながら「〇〇さんを連れて来てくれてありがとう」と話すエイ子さん、職員それぞれにシャツさんがいて、名前も全部違うとの話。職員の間で、エイ子さんに見える守護霊（シャツさん）を見てみたいとの思いを伝え、念願が叶い作品となりました。この作品は埼玉県障がい者アート企画展に600点以上の作品の中から選ばれ出品、秩父地域以外の多くの方に見てもらえました。ご本人も自分の作品を見に行き、作家トークに飛び入り参加され、エイ子ワールドを嬉しそうに話されていました。

さやかグループ



関口エイ子 画伯
作業風景

社会福祉法人 清心会 

<http://www.sayaka.or.jp>



「一新紀元」新たな時代の始まり

— 生きてて良かったを実感できるために —

社会福祉法人清心会 理事長
村山 勇治

明けましておめでとうございます。

平成の時代も残すところ4か月、誰にとっても新元号下、新しい時代の幕開けを体験する特別な年になろうかと思えます。

昭和から平成に変わった30年前は、さやか学園が開設されて5年余り、入所定員も満たされて、運営面において利用者、職員ともに落ち着きを見せて来た頃かと推察されます。

けれども、そこからの30年は障害福祉の世界は激動期、大変革の波にさらされる日々だったような気がいたします。

当さやかグループにおいても、予想もしなかったスピードで変革を迫られる中、何とかサービスの主体を地域生活支援と定め、法人役員、保護者のご理解をいただきながら、職員一丸となって対応することができたように思います。

開設時、入所定員50名、職員数25名のスタートでしたが、今日職員数300名に手が届く大きな事業体に変貌を遂げ、制度や法律の改定とともに、社会そのものが障害者に対する意識の変化を生み、障害福祉業界においてもイノベーションが盛んに行われた結果と理解しております。

さて、新元号下の時代がどのような社会を描き出すのか、予測することはできませんが、はっきりしていることは、これまでのような障害福祉に向けられる財源の伸びは期待できなくなり、むしろ減額への道を余儀なくされることも考えられることです。

加えて、介護人材の慢性的な不足状況の中、サービスの質と量をどのように確保して行くのか、また、地域公益事業を含む、地域で期待される法人の責務をどのように果たし行くのか、ますますその責任が大きくなると思えます。

当法人に限っては、これまでの地域生活重視の方針を堅持し、必要な相談事業体制や地域生活サービス資源を創出しながら、老朽化が進むさやか事業所の拠点整備を、中長期計画と整合させて進めることとなります。

そのコンセプトは10年、20年、30年先を見据えて、「生きてて良かった」と、当事者が心底実感できる地域にすることにあると思えます。

【あいサポート運動の啓発に協力しています！】



さやかグループでは、鳥取県でスタートした「あいサポート運動」の推進に協力させて頂いています。「あいサポート運動」とは、さまざまな特性を理解し、障がいのある人に温かく接するとともに、障がいのある人が困っている時に「ちょっとした手助け」を行うことにより、誰もが暮らしやすい地域社会をつくっていく運動です。

秩父市でも数年前にこの運動をスタートし、秩父市社会福祉協議会が熱意を込めて取り組んでいらっしゃる姿を見て、当会も全面的に協力させて頂くことになりました。

まずは、当法人の約300名の職員にサポーター研修を受講してもらい、その中からこの活動を周囲に啓発していく、メッセンジャーも養成していきたいと思えます。最終的にはさやかグループを取り巻く関係者約1000人の受講を目指していきたいと考えています。

過度な負担にならない、ちょっとした優しさの積み重ねは、心地よい、暮らしやすい街づくりに繋がっていくと確信しています。

修了後はあいサポーターの証となるピンバッジとストラップを頂きました！今後、さやかグループのスタッフはこのバッジを付けて活動をしたいと思えます！

「身近なところに感じる共生社会」

社会福祉法人清心会 総合施設長
岡部 浩之



秩父には大小併せて年間300を超える祭りが存在すると言われています。その中でも、日本三大曳山祭りの一つでもあり、ユネスコの無形文化遺産にも登録された秩父神社の例大祭「秩父夜祭」は、秩父地域の人のみならず、全国的にも世界的にも有名な祭りとして知れ渡っています。

昨年、ご縁を頂き、秩父夜祭の「屋台」に乗るといふ、一生に一度の名誉ある大役を務めさせて頂きました。屋台・笠鉾に乗る者たちの呼び名は各町会によって異なり、「囃子手、囃子、襦袢着」等々あるのですが、私が乗った「中町」という町内では「梶取（かじ

とり）」という名で呼ばれています。その梶取を多くの方々に支えながら務めあげる事が出来ました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

さて、秩父夜祭だけでなく、色々なお祭りに関わっていく中で感じる事があります。これは秩父地域だけでなく、全国のお祭りにも通じることかも知れませんが、そこにはしっかりと「コミュニティー」が存在しているという事です。

当然の事ですが、祭り事を成立させるには一人では出来ず、多くの人たちの協力協働によって成し遂げられています。お年寄りから小さな子どもまで、男女それぞれの役割があり、障がいがある方たちも分け隔てなく仲間として受け入れてくれる土壌があるのです。

では、そのコミュニティーの中に障がい特性を熟知した専門的な関わりがあるのか？というとおそらく皆無だと思えます。ただ、一人の仲間として受け入れ、良いことは良い、悪い事は悪いとしっかりと誉めて叱ってくれる人たちがいるのです。祭りゆえ、口調がきつかったりするのも確かですが、そこに温かさがあるのも事実です。嬉しい事も辛い事もともに共有して、一つの目的に向かって力を合わせて取り組んでいるのです。

私は、昨今国が推進している「我がごと丸ごと共生社会」づくりは、既に祭り文化の中にしっかりと根付き、確立されていると強く感じています。そして、そこにはまだまだ地域福祉を発展させる可能性を感じるのです。

新たに福祉的なネットワークを構築する事ももちろん大事ですが、先人たちから引き継がれてきたコミュニティーを通じて、実現可能な事はないか、もう一度考える時期に来ているように思います。

さやか相談支援室 Zutto (ずっと)

平成30年10月1日より、さやか事業所内に「さやか相談支援室Zutto」が開所となりました。フレンドリーよりZuttoへ移行をしてくださった皆様には、ご協力を頂きましてありがとうございました。

Zuttoは、指定特定相談支援事業所として計画作成を中心に相談事業も実施します。さやか入所やホーム利用、ショートステイ等の希望調整、その他相談窓口として活躍していきたいと思えます。

さやか事業所内で事業を行う事で、当会のサービスがスムーズに利用して頂けるよう努めて参りますので、今後ともご指導、ご協力をお願いいたします。



★野菜たっぷりスープ

①オリーブオイルで、にんにく、ベーコンを炒め香りが出てきたら玉ねぎ、大根、人参、じゃがいもを炒めます。

②野菜がしんなりしてきたら水を入れ、味付けをし、しめじ、キャベツ、インゲンを入れ仕上げます。最後にもう一度味を調べて出来上がりです。

ベーコン	80g
玉ねぎ	80g
大根	80g
じゃがいも	80g
キャベツ	80g
しめじ	40g
人参	20g
インゲン	20g
水	800ml
コンソメの素 適量	
塩 こしょう 少々	
好みで コショウ	



今回は、寒いこの季節に体の温まる具たくさんスープを紹介しました。冬と言えば鍋も良いですが、ちょっと目先を変え、洋食のメニューにはピッタリな一品も、たまにはいかがでしょうか。冷え症の方にはおすすめ！お好みで生姜をたっぷり入れれば、体の芯から温まります。簡単にできますので是非作ってみてください。

さやか菖蒲会

さやか菖蒲会の目的の1つは、福利厚生の一環として、職員の親睦を深め、仕事の活力を高める事です。職員旅行・ハイキング・女子会など、楽しい行事が盛りだくさん！

職員だけでなく、そのご家族も参加して親睦を深めて頂けるような、様々な企画を用意しております。先日のクリスマス会では、サンタからのプレゼントもあり、大人から子どもまで大盛り上がりでした。

そんな仲の良い職場で、私たちと一緒に働きませんか。当法人は職員の募集も随時行っております。興味のある方はお気軽にご連絡ください！！



★子どもパン体験教室＆さやかロックハンミニライブ★



★クリスマス会★

幸恵さんの「とりあえず喰ってみ！」

「ちちぶまゆ」の巻

秩父中村屋の「ちちぶまゆ」まだ食べた事がない人はいるだろうか
マシユマロの中に
メープルシロップが入っている
そのメープルシロップだが
モンドセレクトシヨン3年連続銀賞受賞
世界が認めた”秩父力エデ糖”なのだ
確かに外国のと違って上品な味である
その食べ方が
そのまま頂くのはもちろんのこと
ホットコーヒーに入れるのが
その大将のおすすめでもある
お土産で3個入りのがある
濃い目のコーヒーにふたつ浮かべて
ひとつはそのまま頂く
とてもまったりとせいたくな
コーヒータイムになる



SAYAKA ROCK-HAN

皆さん元気になつてますか！我らの元気なバンドメンバーを紹介します。まずは、カウベル担当『有坂雄一さん』通称『ユウちゃん』。ライブでは、普段の彼からは想像出来ない程の、熱いパフォーマンスがみられます。独特なリズムと突き抜けるカウベルの響き、彼の豊かな表情でお客さんを魅了します！次に紹介するのは、クラベス担当『江野紗百合さん』通称『サユリ』です。正確なリズム感と、彼女の代名詞とも言える満面の笑顔が魅力です。ボーカルにも挑戦中で、もはやライブでは欠かせない存在になっています。メンバーみんな楽しく真剣に、良いライブが出来るように練習しています。またライブや楽しいイベントをやりますので、サヤカロックハンのフェイスブックをチェックしてみてください。気軽に楽しめる雰囲気なライブですので、みんなで一緒に盛り上がりましょう！ではまた。http://www.facebook.com/sayakarockhan/ (サヤカロックハンで検索してもOKです！) ホーム 小泉 薫



サヤカロックハン



＝編集後記＝

新年明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。平成最後の年がスタートし、新たな気持ちで新年を迎えられた方も多いと思います。さやか広報誌がリニューアルし早丸2年が経過しました。皆さんに楽しんで頂ける様、また良い情報が発信できる様に試行錯誤しながら進めてきました。今回の広報誌も新年号に相応しい情報満載の記事になっています。これからも皆さんに発行が待ち遠しく思われる様な広報誌にしていきたいと思うので、よろしくお祈りします。
ふらわあ 田端義郎